蛇足だそく

楚有祠者賜其舍人卮酒

① 楚そ 有ニ 祠まつル 者、
② 祠まつル 者、
③ 者、

④ 有ニ 祠まつル 者、
⑤ 其そノ 舍しゃ 人じんニ 卮し 酒しゅヲ。
⑥ 舍しゃ 人じんニ 卮し 酒しゅヲ。
⑦ 人じんニ 卮し 酒しゅヲ。
⑧ 卮し 酒しゅヲ。
⑨ 酒しゅヲ。
⑩ 賜たまフ 其そノ 舍しゃ 人じんニ 卮し 酒しゅヲ。

楚に 祠る 者 あり、その 舍人に 卮酒を 賜ふ。

楚の国に、祭祀をつかさどる者がいて、(その人は) その使用人に大きな杯さかずきに満たされた酒を与えた。

舎人相謂曰数人飲之不足、一人
飲之有余請画地为蛇先成者飲酒

① 舎 ② 人 ③ 相 あひ ④ 謂 いヒテ ⑤ 曰 いハク

「数 ⑥ 人 ⑦ 飲 マバ ⑧ 之 これヲ ⑨ 不 ず ⑩ 足 ラ、

⑫ 一 いち ⑬ 人 にん ⑭ 飲 マバ ⑮ 之 ヲ ⑯ 有 リ ⑰ 余 リ ⑱ 。

⑲ 請 こフ、 ⑲ 画 ゑがキテ ⑲ 地 ニ ⑲ 為 つくリ ⑲ 蛇 へびヲ、

⑲ 先 まツ ⑲ 成 ル ⑲ 者 ⑲ 飲 マント ⑲ 酒 ヲ ⑲ 。

舎人相謂ひて曰はく、

「数人 これを 飲まば 足らず、一人 これを
飲まば 余り あり。請ふ、地に 画きて

蛇を 為り、まず 成る 者 酒を 飲まん。」と。

使用人は話し合つて、

「数人で飲めば足りないが、一人で飲めば余り
がある。(そこで)どうか地面に蛇を描き、

最初に描き上がった者が酒を飲むことにしたい。」と言つた。

一人蛇先成引酒且飲之乃左手持卮右手画蛇曰吾能為之足

① 一 いち ② 人 にんノ ③ 蛇 へび ④ 先 まズ ⑤ 成 ル

⑦ 引 キテ ⑥ 酒 ヲ ⑧ 且 まさニ ⑩ 飲 マント ⑨ 之 ヲ

⑫ 乃 すなはチ ⑬ 左 ニテ ⑭ 手 チ ⑮ 持 シ ⑯ 卮 ヲ

⑰ 右 ニテ ⑱ 手 チ ⑲ 画 画キテ ⑳ 蛇 ヲ ㉑ 曰 いハク

㉒ 「吾 われ ㉓ 能 よく ㉔ 為 つくルト ㉕ 之 ガ ㉖ 足 ヲ。」

一人の蛇 まず 成る。酒を 引きて まさに
これを 飲まんとす。すなはち 左手にて
卮を 持ち、右手にて 蛇を 画きて 曰はく、
「吾 よく これが 足を 為る。」と。

(競争が始まり、) 一人の蛇が最初に描き上がった。(そこで、) 酒を引き寄せて
今にも飲もうとした。そして、左手で杯を持ちながら、右手では(再び地面に)
蛇を描き(始め)、 「私はこの足を描くこともできる。」と言った。

未成一人之蛇成奪其卮曰蛇
固無足子安能為之足

① 未 いまダ ② 成 ラ ③ 一 いち ④ 人 にん ⑤ 之 の ⑥ 蛇 へび ⑦ 成 ル

⑧ 奪 うばヒテ ⑨ 其 シ ⑩ 卮 し ⑪ 曰 いハク

「蛇固無足。」

⑬ 子 し ⑭ 安 いざん ⑮ 能 よク ⑯ 為 つくランヤト ⑰ 之 ガ ⑱ 足 ヲ ⑲ 「

いまだ 成らざるに、一人の蛇 成る。その 卮を
奪ひて 曰はく、

「蛇 もとより 足 なし。子 づくことぞ
よく これが 足を つくらんや。」と。

(すると、その足が) 描き終わらないうちに、もう一人の蛇が描き上がった。(そ
して、) 最初に描き上げた者の杯を奪い、
「蛇にはもともと足がない。あなたはべつしてその足を描くことができたのか
と。」「
と言った。

遂飲其酒為蛇足者終亡其酒

① 遂 つひニ
② 飲 ニ ム
③ 其 そノ
酒 ヲ
④
⑤ 蛇 ヲ
⑥ 足 一 ヲ
⑦ 為 ニ つくる
⑧ 者 ヲ
⑨ 終 つひニ
⑩ 其 そノ
酒 ヲ
⑪ 亡 ニ うしなふ

つひにその酒を飲む。蛇足をつくる者、つひにその酒を
うしなふ。

そうしてその酒を飲んでしまった。蛇の足を描いた者は、結局その酒を飲むこ
とができなくなってしまった。